

# 第 43 回 山口県下医師会立看護学院（校）対抗 バレーボール大会

と き 平成 30 年 6 月 24 日（日）9 時～15 時

ところ 山口市・維新百年記念公園スポーツ文化センター

〔報告：宇部市医師会看護専門学校担当理事 藤野 隆〕

今年で 43 回目となる山口県下医師会立看護学院（校）対抗バレーボール大会が 6 月 24 日、維新百年記念公園スポーツ文化センターで開催されました。

今年の参加チームは男子 9 チーム、女子 4 チームと、例年と比べ約半数の数となり、減少に多少の寂しさを禁じ得ない気持ちでしたが、いざ試合が始まると熱戦に次ぐ熱戦となり、加えて応援団も 500 名以上集まったためか大変な盛り上がりとなりました。

女子は徳山看 A・B、防府看、防府准看の 4 チームの参加でした。防府看と徳山看 A の対戦は徳山看 A、防府准と徳山看 B の対戦は防府准が勝利しました。決勝戦は徳山看 A と防府准の対戦で、徳山看 A が 21-6、21-17 と優勝しました。

男子（女子も含む）は 9 チームの参加で熱戦

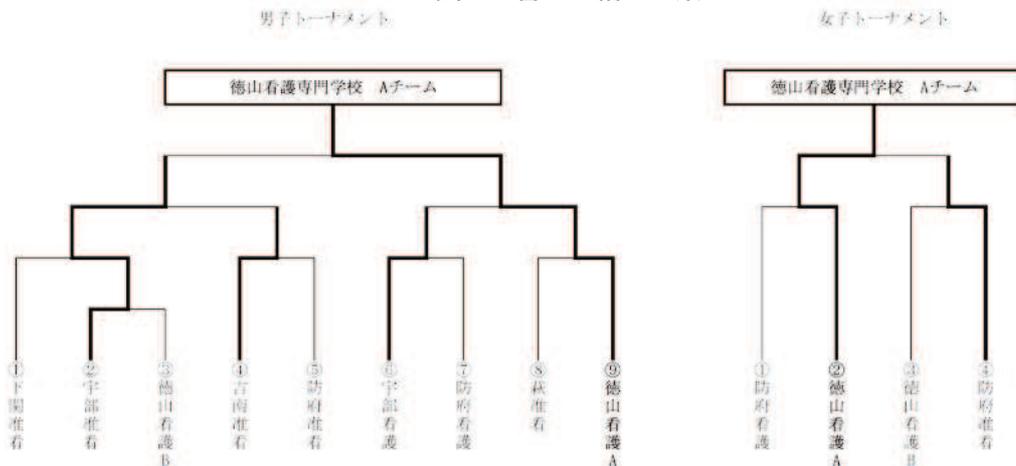
が繰り広げられ（詳細は組み合わせ表を参照）、決勝戦は徳山看 A と宇部准となりました。両チーム共にエースアタッカーの活躍もあり決勝戦まで勝ち上がってきましたが、決勝戦は熱戦の末 21-13、21-5 で徳山看 A が優勝しました。その結果、男女ともに徳山看護専門学校の優勝で幕を閉じたわけですが、男女ともにエースアタッカーの活躍と選手層の厚さが勝利に結びついたと感じます。改めて徳山看護専門学校の皆様、優勝おめでとうございます。

今年も大きなトラブルもなく大会を終えることができましたが、冒頭申したように今年は参加チームが例年の半分程度に落ち込みました。これは看護を目指す学生の慢性的な減少が第一の原因と考えられます。また、カリキュラムの変更に伴い講義及び実習時間の延長で学生及び教職員の負担の増加も影響していると推察されます。

近年、学生数の減少に伴い学院（校）を取り巻く環境の悪化が叫ばれております。我が宇部看護専門学校も同様に優秀な教員、学生の確保に四苦八苦しています。おそらく他の学院（校）も似たような状況でバレーボール大会にまで人員、時間を割くことができず、萎縮傾向にあることが今回のバレーボール大会で顕在化したと思われます。現在、県医師会でバレーボール大会の継続について



試 合 結 果



て議論されております。しかし、今大会では試合は白熱し、チーム内でお互い助け合い、励まし合い勝利に向かう姿勢は美しく見えました。試合終了後、勝ったチーム、負けたチームがお互いの健闘を称え合い、記念写真を撮るなどして親睦を深め合う光景もありました。また、応援する側も一生懸命応援する姿には心を打たれました。特に下関、吉南の応援は素晴らしいものでした。この度、当番校としてバレーボール大会を運営させていただいた者として言えるのは、この大会は今後、看護を目指す学生がお互いを助け合い、理解し合うための勉強の場であり、他校との交流の良い機会であるということです。運営は教職員には負担が大きいのとは思いますが、学生の将来を考えるととても意義ある大会と感じております。参加するチームは少なくとも、練習する時間が少なくとも、何とか今後も継続できればと願ってやみません。

大会運営のために審判等でご協力いただいた山口市バレーボール協会の皆様、本当にありがとうございました。また、山口県医師会よりご出席いただいた前川恭子先生、事務局職員の方、次回引き受けの山本一成先生（防府看護専門学校校

長）におかれましては最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。最後に、ご参加くださった県下看護学院（校）学生の皆さん、教職員の皆さん、大きなトラブルなく今大会を運営された宇部看護専門学校の教職員、学生の皆さん、本当にありがとうございました。

来年は（もし開催されるなら）防府看護専門学校が引き受けとなります。今後の継続のために多くの皆様の参加をお願いするとともに、今年以上の盛り上がりがありますよう祈念いたします。



県医師会より

バレーボール大会は、その後に開催された理事会において、今回をもって終了することが決定いたしました。